

【 調査位置平面図 (S=1:2000) 】

奄美市	
事業名	令和元年度 名瀬港(本港地区) 地質調査業務委託
海岸名	名瀬港
事業箇所	奄美市 名瀬港之脇町地内
図面種類	全体平面図
縮尺	1:1000
図面番号	全3葉 第1号

1.2 調査実施数量

本業務における実施数量を取りまとめて表 1.2 に示す。

表 1.2 調査実施総括数量表

工種	種別・細別・規格	単位	数 量					合計
			No.1	No.2	No.3	No.4	No.5	
地質調査								
	φ66mm 礫混り土砂	m	42.05	9.40	45.00	28.20	30.20	154.85
	φ66mm 粘性土・シルト	m	7.95	7.00	18.90	10.60	19.80	64.25
	φ66mm 砂・砂質土	m	0.00	2.10	6.10	11.20	0.00	19.40
	φ66mm 軟岩	m	0.00	5.50	0.00	0.00	0.00	5.50
	合計	m	50.00	24.00	70.00	50.00	50.00	244.00
標準貫入試験								
	礫混り土砂	回	42	9	45	28	30	154
	粘性土・シルト	回	8	7	19	11	20	65
	砂・砂質土	回	0	2	6	11	0	19
	軟岩	回	0	6	0	0	0	6
	合計	回	50	24	70	50	50	244
足場仮設								
	平坦地足場	箇所	1	1	1	1	1	5
解析等調査								
	資料整理とりまとめ	業務	1					
	断面図等の作成	業務	1					

3. 調査結果

3.1 調査ボーリング結果

調査ボーリングは、巻頭「調査位置平面図」に示す5箇所を実施した。

調査ボーリング結果は「ボーリング柱状図」として取りまとめ、巻末資料に添付する。

本項ではボーリングで確認した地層について概説する。

1) No.1地点

- ・ 孔口標高：GH=3.451m
- ・ 調査深度：GL-50.00m
- ・ 孔内水位：GL-1.80m

(1) 盛土層 GL-0.00m～8.80m

全体的に不均一な礫混り土砂を主体とする人口盛土地盤である。

GL-5.00m～8.80m間は、最大20cm程度の硬質な転石が多く混在する。

含水は少位である。

ボーリング用水が若干逸水する。

色調は灰褐色となり、層厚は8.80mである。N値=6～60以上を示す。

(2) サング礫混りシルト層 GL-8.80m～15.60m

全体的に不均質なシルトが主体となる。

サング礫は、φ5mm～20mm程度が多い。

含水は中位で、粘性は小位である。

色調は灰色となり、層厚は6.80mである。N値=3～17を示す。

(3) 砂礫層（上部） GL-15.60m～42.35m

全体的に粒子不均一な中砂～粗砂とφ5mm～50mm程度の亜円礫を多く混入する。

礫は、硬質な頁岩砂岩礫が混入する。含水は少位である。

GL-39.10m～39.60m間は不均質なシルトが多く、腐食物・貝殻片が少量混入する。

色調は暗褐灰色となり、層厚は26.75mである。N値=6～43を示す。

(4) シルト層（下部） GL-42.35m～43.50m

全体的に不均質なシルトが主体となる。

含水は少位で、粘性は中位である。

色調は暗灰色となり、層厚は1.15mである。N値=11を示す。

(5) 砂礫層（下部） GL-43.50m～50.00m

全体的に粒子不均一な中砂～粗砂とφ10mm～30mm程度の垂円礫を多く混入する。

礫は硬質な頁岩砂岩礫が混入する。含水は少位である。

GL-46.90m～47.70m間は不均質なシルトを挟む。

色調は灰褐色～淡緑灰色となり、層厚は6.50mである。N値=5～29を示す。

2) No.2地点

- ・ 孔口標高 : GH=3.536m
- ・ 調査深度 : GL-24.00m
- ・ 孔内水位 : GL-1.80m

(1) 盛土層 GL-0.00m~6.70m

全体的に不均一な礫混り土砂を主体とする人口盛土地盤である。

GL-1.00m~7.00m間は、最大10cm程度の硬質な転石が多く混在する。

含水は少位である。

ボーリング用水が若干逸水する。

色調は暗褐色となり、層厚は6.70mである。N値=6~18を示す。

(2) シルト混り砂層（上部） GL-6.70m~8.80m

全体的に均一な細砂が主体となり、シルトが少量混入する。

所々に貝殻片が少量混入する。含水は中位である。

GL-7.00m付近からボーリング用水が激しく逸水する。

色調は褐灰色となり、層厚は2.10mである。N値=6を示す。

(3) サンゴ礫混りシルト層 GL-8.80m~15.80m

全体的に不均質なシルトが主体となる。

サンゴ礫は、φ5mm~30mm程度を多く混入する。

所々で細砂が少量混入する。含水は中位で、粘性は小位である。

色調は暗灰色~淡灰色となり、層厚は7.00mである。N値=3~5を示す。

(4) 砂礫層（上部） GL-15.80m~18.50m

全体的に粒子不均一な中砂~粗砂とφ5mm~30mm程度の亜円礫を多く混入する。

含水は中位である。

ボーリング用水が若干逸水する。

色調は暗褐灰色となり、層厚は2.70mである。N値=23~36を示す。

(5) GL-18.50m～24.00m 頁岩風化部

上部は風化の影響により軟質化の進行する頁岩となる。

下部に従い、全体的に短柱状コアで採取される。

岩質は概ね堅硬であるが、ハンマーの軽打で割れる程度の硬さとなる。

色調は灰褐色～暗灰色となり、層厚は5.50mである。N値=60以上を示す。

3) No.3地点

- ・ 孔口標高 : GH=3.784m
- ・ 調査深度 : GL-70.00m
- ・ 孔内水位 : GL-1.80m

(1) 盛土層 GL-0.00m～11.90m

全体的に不均一な礫混り土砂を主体とする人口盛土地盤である。

GL-10.00m付近で木片が点在する。

含水は少位～中位である。

ボーリング用水が若干逸水する。

色調は褐色となり、層厚は11.90mである。N値=4～15を示す。

(2) シルト混り砂層（上部） GL-11.90m～13.80m

全体的に不均一な中砂～粗砂が主体となる。シルトが少量混入する。

含水は中位である。

ボーリング用水が若干逸水する。

色調は褐灰色となり、層厚は1.90mである。N値=4～11を示す。

(3) サング礫混りシルト層 GL-13.80m～23.60m

全体的に不均質なシルトが主体となる。

サング礫は、φ5mm～20mm程度が多い。

含水は中位で、粘性は小位である。

色調は淡灰色となり、層厚は9.80mである。N値=3～13を示す。

(4) シルト層（上部） GL-23.60m～29.70m

全体的に均質なシルトが主体となる。

腐食物・貝殻片・頁岩礫がわずかに混入する。

含水は少位で、粘性は中位である。

色調は暗灰色となり、層厚は6.10mである。N値=5～7を示す。

(5) 砂礫層（上部） GL-29.70m～41.80m

全体的に粒子不均一な中砂～粗砂とφ2mm～40mm程度の亜円礫を多く混入する。

礫は硬質な頁岩砂岩礫が混入する。含水は中位である。

ボーリング用水の逸水が激しく孔壁崩壊しやすくなる。

色調は暗褐灰色となり、層厚は12.10mである。N値=14～58を示す。

(6) 礫混り砂層 GL-41.80m～46.00m

全体的に粒子不均一な中砂～粗砂が主体となる。

礫はφ2mm～10mm程度の頁岩砂岩礫が少量混入する。含水は中位である。

ボーリング用水の逸水が激しく孔壁崩壊しやすくなる。

色調は暗褐灰色となり、層厚は4.20mである。N値=27～31を示す。

(7) シルト層（下部） GL-46.00m～49.00m

全体的に均質なシルトが主体となる。

貝殻片がわずかに点在する。

含水は少位で、粘性は中位である。

色調は暗灰色となり、層厚は3.00mである。N値=9～12を示す。

(8) 砂礫層（下部） GL-49.00m～70.00m

全体的に粒子不均一な細砂～粗砂とφ2mm～50mm程度の亜円礫を多く混入する。

礫は硬質な頁岩砂岩礫が混入する。

砂は上部は細砂～中砂で、下部に従い中砂～粗砂となる。

含水は中位である。

ボーリング用水が若干逸水する。

色調は暗灰色～暗褐灰色～灰褐色となり、層厚は21.00mである。

N値=9～60以上を示す。

4) No.4地点

- ・ 孔口標高 : GH=3.548m
- ・ 調査深度 : GL-50.00m
- ・ 孔内水位 : GL-2.10m

(1) 盛土層 GL-0.00m～9.80m

全体的に不均一な礫混り土砂を主体とする人口盛土地盤である。
所々に最大20cm程度の硬質な転石・コンクリート片・木片が点在する。
含水は少位である。
ボーリング用水が若干逸水する。
色調は灰褐色となり、層厚は9.80mである。N値=4～31を示す。

(2) サンゴ礫混りシルト層 GL-9.80m～16.60m

全体的に不均質なシルトが主体となる。
サンゴ礫は、φ5mm～20mm程度が多い。
含水は中位で、粘性は小位である。
色調は褐灰色～淡灰色となり、層厚は6.80mである。N値=2～5を示す。

(3) シルト混り砂層（下部） GL-16.60m～27.80m

全体的に粒子均一な細砂が主体となり、所々シルトが少量混入する。
含水は少位である。
ボーリング用水が若干逸水する。
色調は淡灰色となり、層厚は11.20mである。N値=3～11を示す。

(4) 砂礫層（上部） GL-27.80m～45.70m

全体的に粒子不均一な細砂～中砂とφ2mm～40mm程度の亜円礫を多く混入する。
礫は硬質な頁岩砂岩礫が混入する。含水は中位である。
ボーリング用水が若干逸水する。
色調は暗褐灰色となり、層厚は17.90mである。N値=16～33を示す。

(5) シルト層（下部） GL-45.70m～49.50m

全体的に不均質なシルトが主体となる。

所々に腐食物が少量混入する。

含水は少位～中位で、粘性は中位である。

色調は暗灰色となり、層厚は3.80mである。N値=5～12を示す。

(6) 砂礫層（下部） GL-49.50m～50.00m

全体的に粒子不均一な細砂～中砂とφ2mm～30mm程度の亜円礫を多く混入する。

礫は硬質な頁岩砂岩礫が混入する。含水は中位である。

ボーリング用水が若干逸水する。

色調は暗褐灰色となり、層厚は0.50mである。N値=12を示す。

5) No.5地点

- ・ 孔口標高：GH=3.444m
- ・ 調査深度：GL-50.00m
- ・ 孔内水位：GL-1.30m

(1) 盛土層 GL-0.00m～3.60m

全体的に不均一なサンゴ礫混り土砂を主体とする人口盛土地盤である。

含水は少位である。

ボーリング用水が若干逸水する。

色調は白灰色となり、層厚は3.60mである。N値=6～26を示す。

(2) サンゴ礫混りシルト層 GL-3.60m～12.50m

全体的に不均質なシルトが主体となる。

サンゴ礫は、φ5mm～20mm程度が多い。

含水は少位～中位で、粘性は小位である。

色調は灰色となり、層厚は8.90mである。N値=1～16を示す。

(3) 砂礫層（上部） GL-12.50m～31.80m

全体的に粒子不均一な中砂～粗砂とφ5mm～30mm程度の垂円礫を多く混入する。

礫は、硬質な頁岩砂岩礫が混入する。含水は少位である。

色調は暗褐灰色となり、層厚は19.30mである。N値=4～50を示す。

(4) シルト層（下部） GL-31.80m～37.90m

全体的に不均質なシルトが主体となる。

腐食物・貝殻片・頁岩礫がわずかに混入する。

含水は少位で、粘性は中位である。

GL-32.400m～32.60m・GL-35.90m～36.40m間は粒子均一な中砂を挟む。

色調は暗灰色となり、層厚は6.10mである。N値=6～25を示す。

(5) 礫混りシルト層 GL-37.90m～42.70m

全体的に不均質なシルトが主体となり、φ5mm～φ30mm程度の風化礫が少量混入する。含水は中位である。

ボーリング用水は若干逸水する。

GL-39.00m～39.40m間は粒子均一な中砂を挟む。

色調は暗褐灰色となり、層厚は4.80mである。N値=10～32を示す。

(6) 砂礫層（下部） GL-42.70m～50.00m

全体的に粒子不均一な中砂～粗砂とφ10mm～30mm程度の垂円礫を多く混入する。礫は硬質な頁岩砂岩礫が混入する。含水は少位である。

ボーリング用水は若干逸水する。

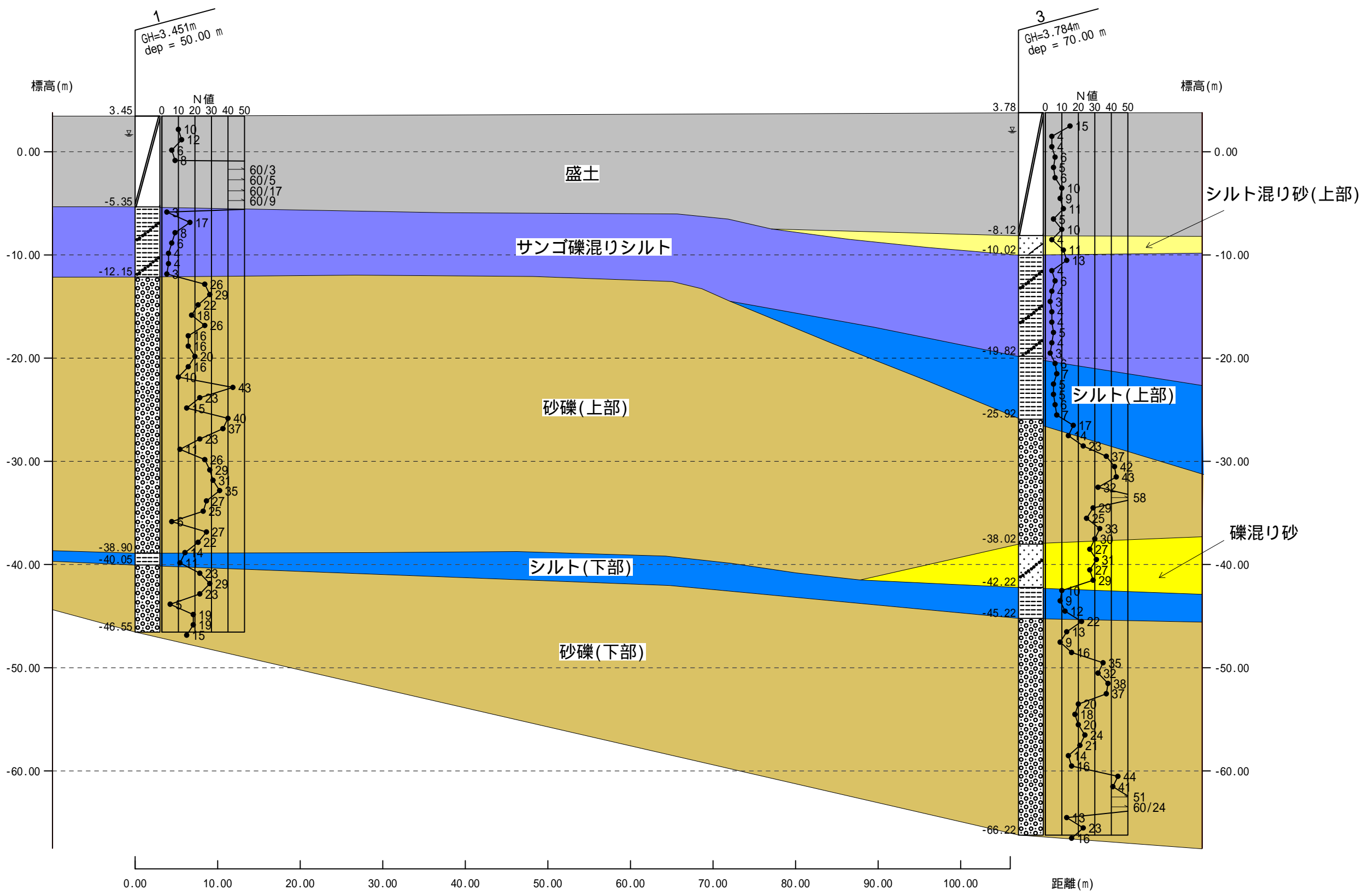
GL-47.00m付近より風化礫が多く混入し、5cm～10cm程度の頁岩礫が点在する。









色調は灰褐色となり、層厚は7.30mである。N値=20～58を示す。

以上の結果を取りまとめて表3.1に地質層序表を一覧する。

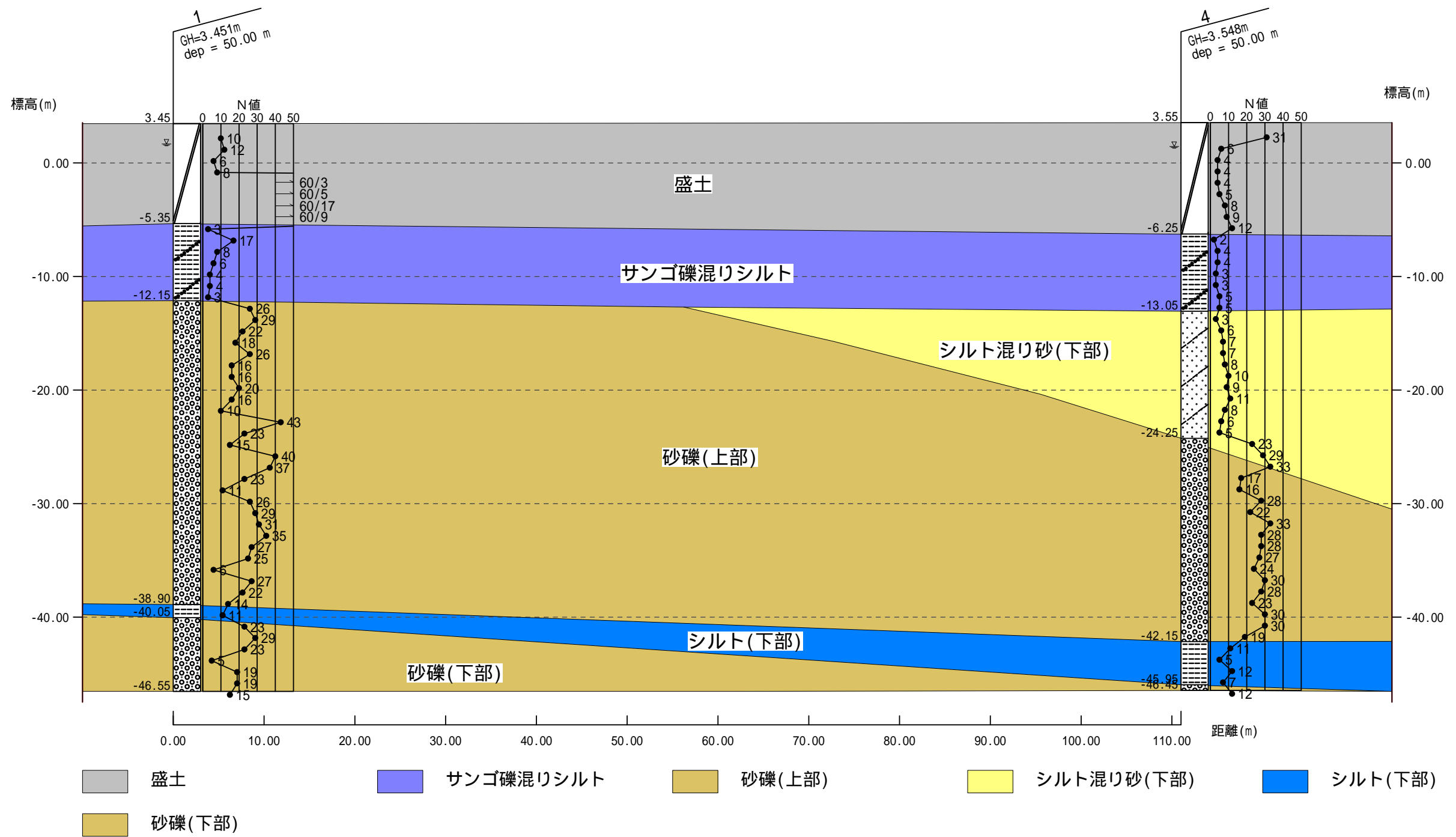
表3.1 地 質 層 序 表

時代	地 質 名	特 徴	N 値
完 新 世	盛土層	全体的に不均一な礫混り土砂が主体の人口盛土地盤である	4～60以上
	シルト混り砂 (上部)	粒子不均一な中砂～粗砂が主体で一部均一な細砂となりシルトが少量混入する	4～11
	シルト混り砂 (下部)	粒子均一な細砂が主体で所々にシルトが少量混入する	3～11
	サンゴ礫混り シルト層	不均質なシルトが主体で、サンゴ礫はφ5mm～30mm程度が多い	2～17
	礫混り砂層	粒子不均一な中砂～粗砂が主体でφ2mm～10mm程度の頁岩砂岩礫が少量混入する	27～31
	礫混りシルト層	不均質なシルトが主体でφ2mm～30mm程度の風化礫が少量混入する	10～32
	シルト層 (上部)	均質なシルトが主体で腐食物・貝殻片・頁岩礫がわずかに混入する	5～7
	シルト層 (下部)	不均質なシルトが主体で一部均質なシルトとなり腐食物・貝殻片が混入する	5～12
	砂礫層 (上部)	粒子不均一な中砂～粗砂とφ5mm～50mm程度の垂円礫が主体である	6～58
	砂礫層 (下部)	粒子不均一な細砂～粗砂とφ2mm～50mm程度の垂円礫が主体である	5～60以上
中生代 白亜紀	頁岩風化部	風化の影響により軟質化の進行する頁岩で下部に従い短柱状コアで採取する	60以上

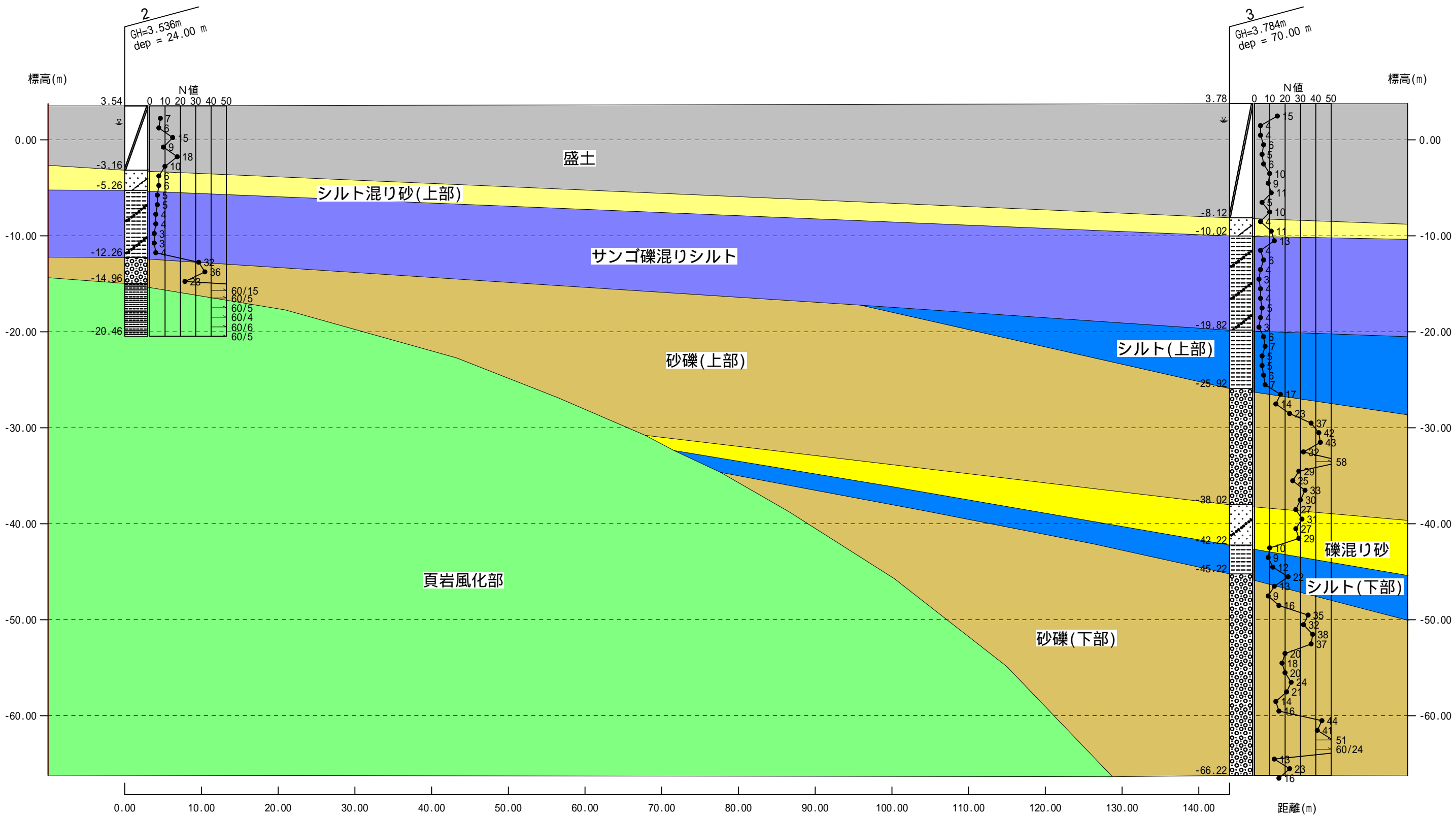


- | | | | | |
|--|---|--|--|---|
|  盛土 |  サンゴ礫混りシルト |  シルト混り砂(上部) |  砂礫(上部) |  シルト(上部) |
|  礫混り砂 |  シルト(下部) |  砂礫(下部) | | |

地質断面図 S:H=1/500 V=1/400

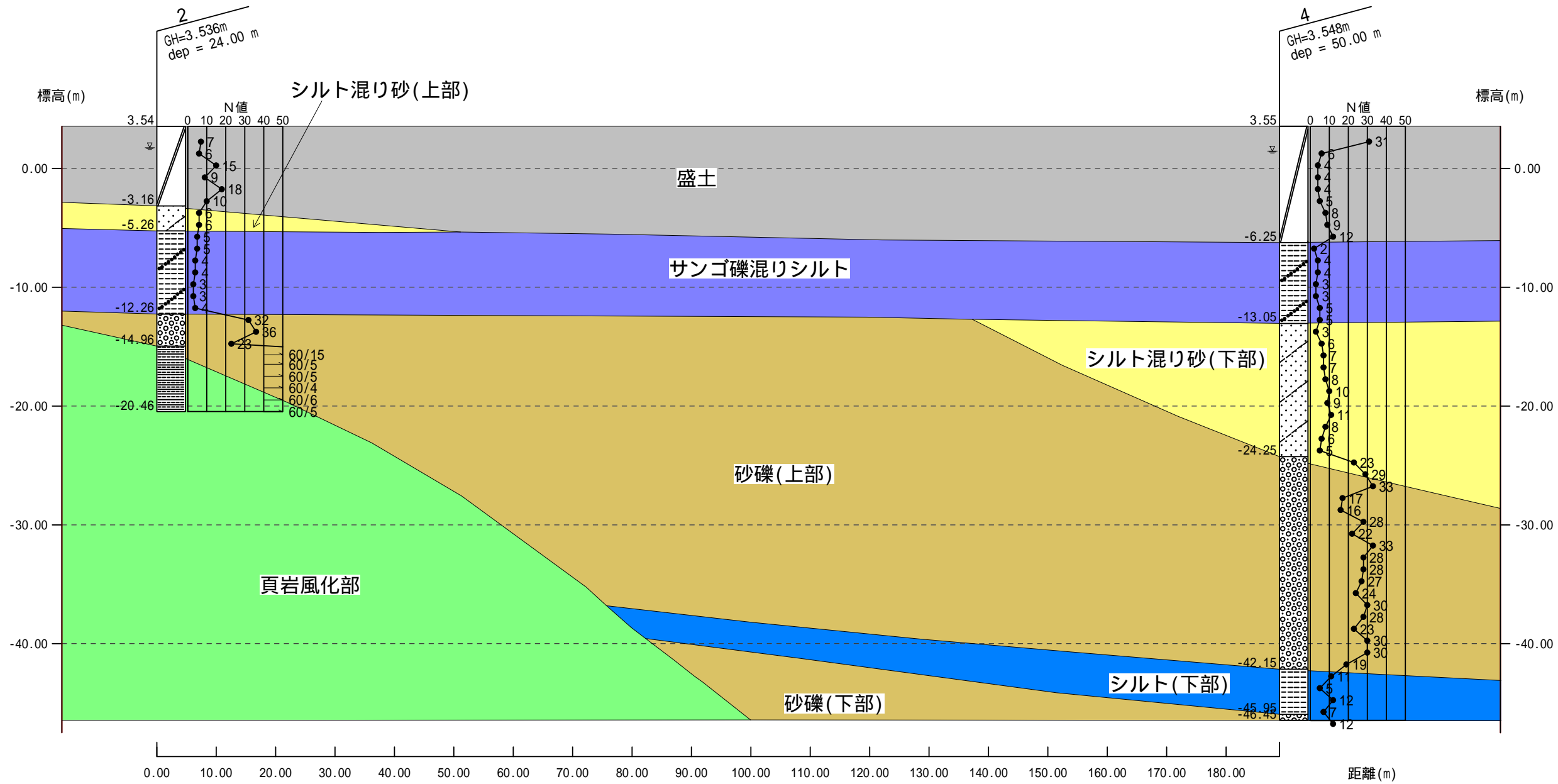


地質断面図 S:H=1/500 V=1/400



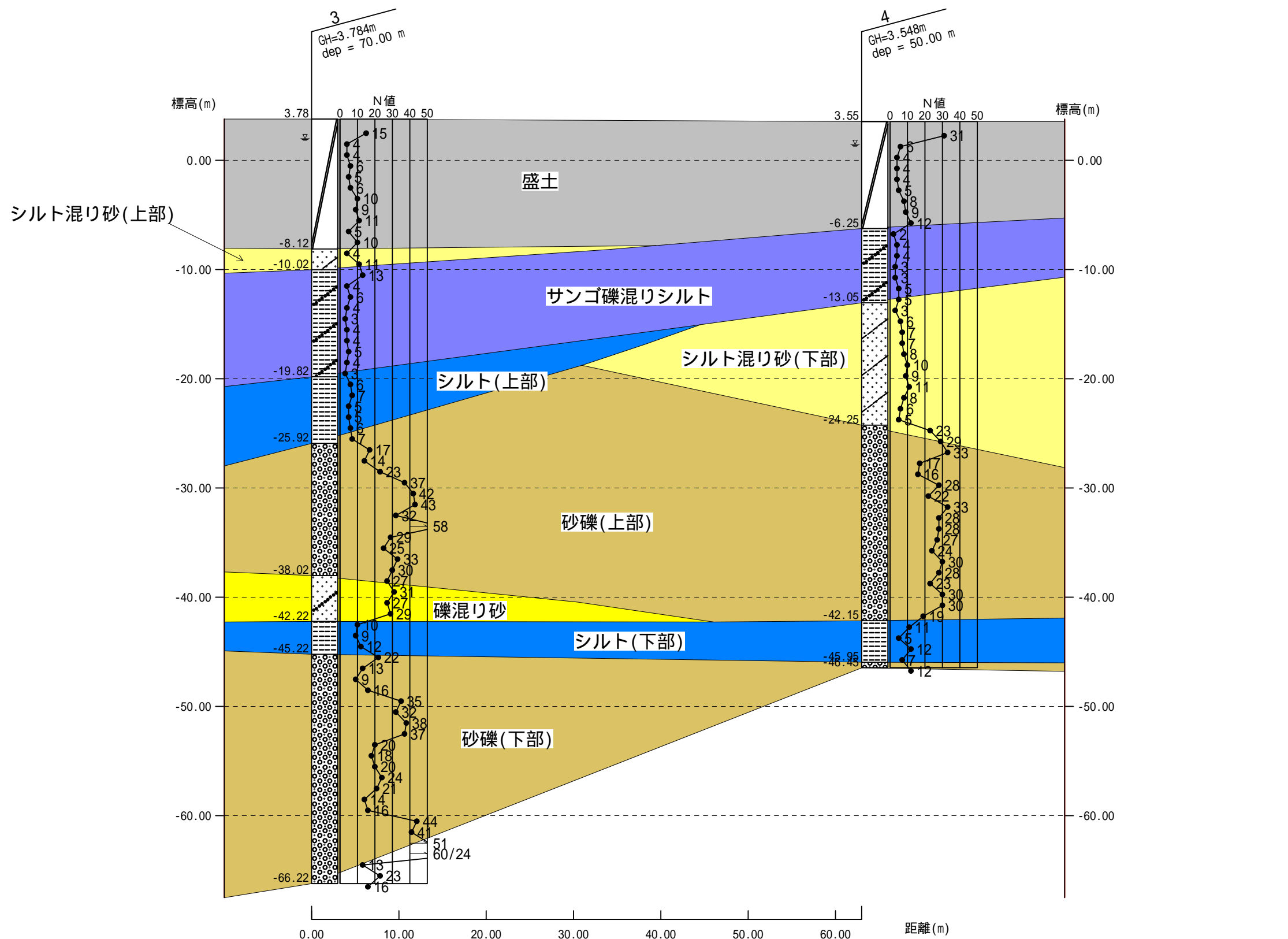
- | | | | | |
|---------|------------|-----------|--------|-------|
| 盛土 | シルト混り砂(上部) | サンゴ礫混りシルト | 砂礫(上部) | 頁岩風化部 |
| シルト(上部) | 礫混り砂 | シルト(下部) | 砂礫(下部) | |

地質断面図 S:H=1/500 V=1/400



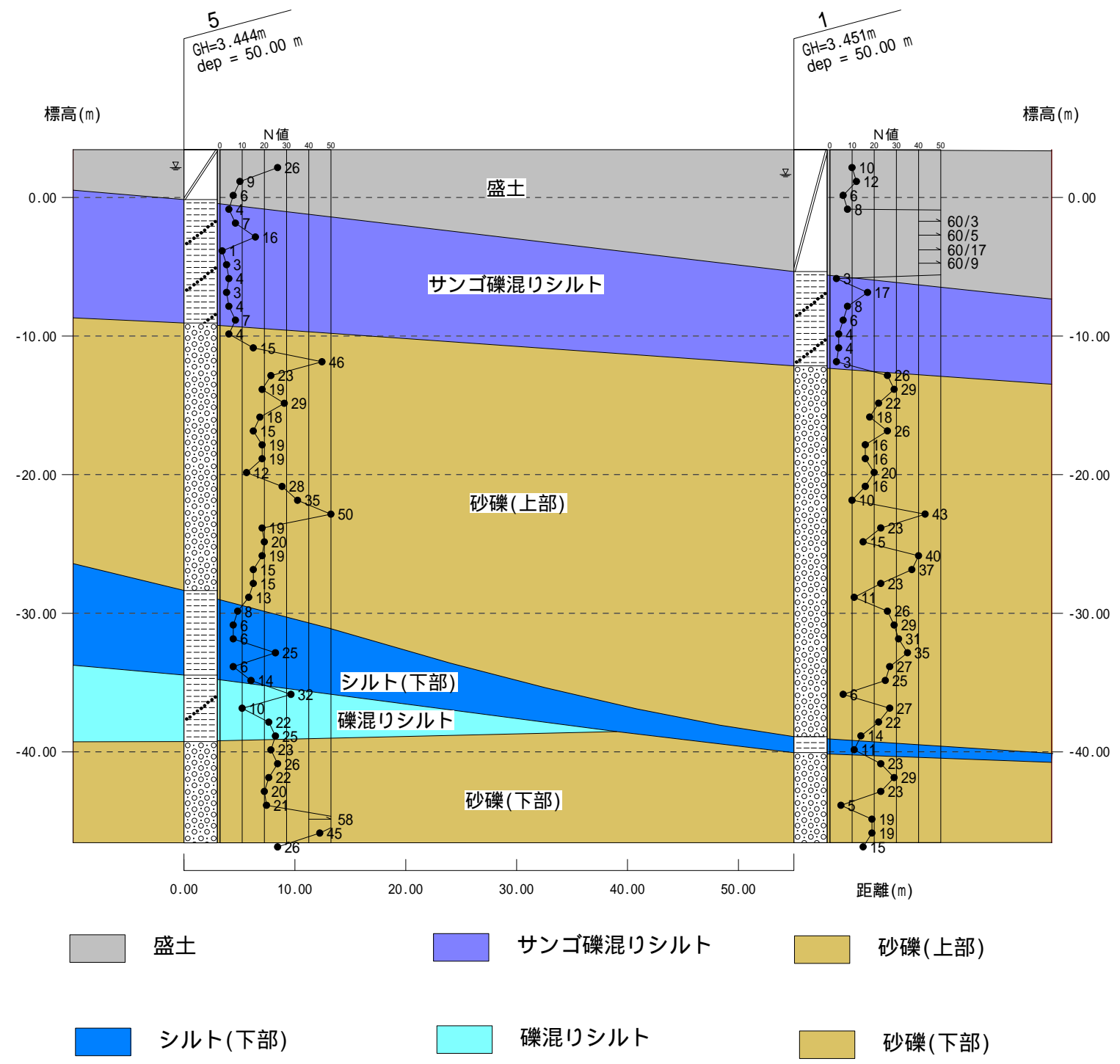
- | | | | |
|-----------|------------|-----------|--------|
| 盛土 | シルト混り砂(上部) | サンゴ礫混りシルト | 砂礫(上部) |
| シルト混り(下部) | 頁岩風化部 | シルト(下部) | 砂礫(下部) |

地質断面図 S:H=1/800 V=1/400

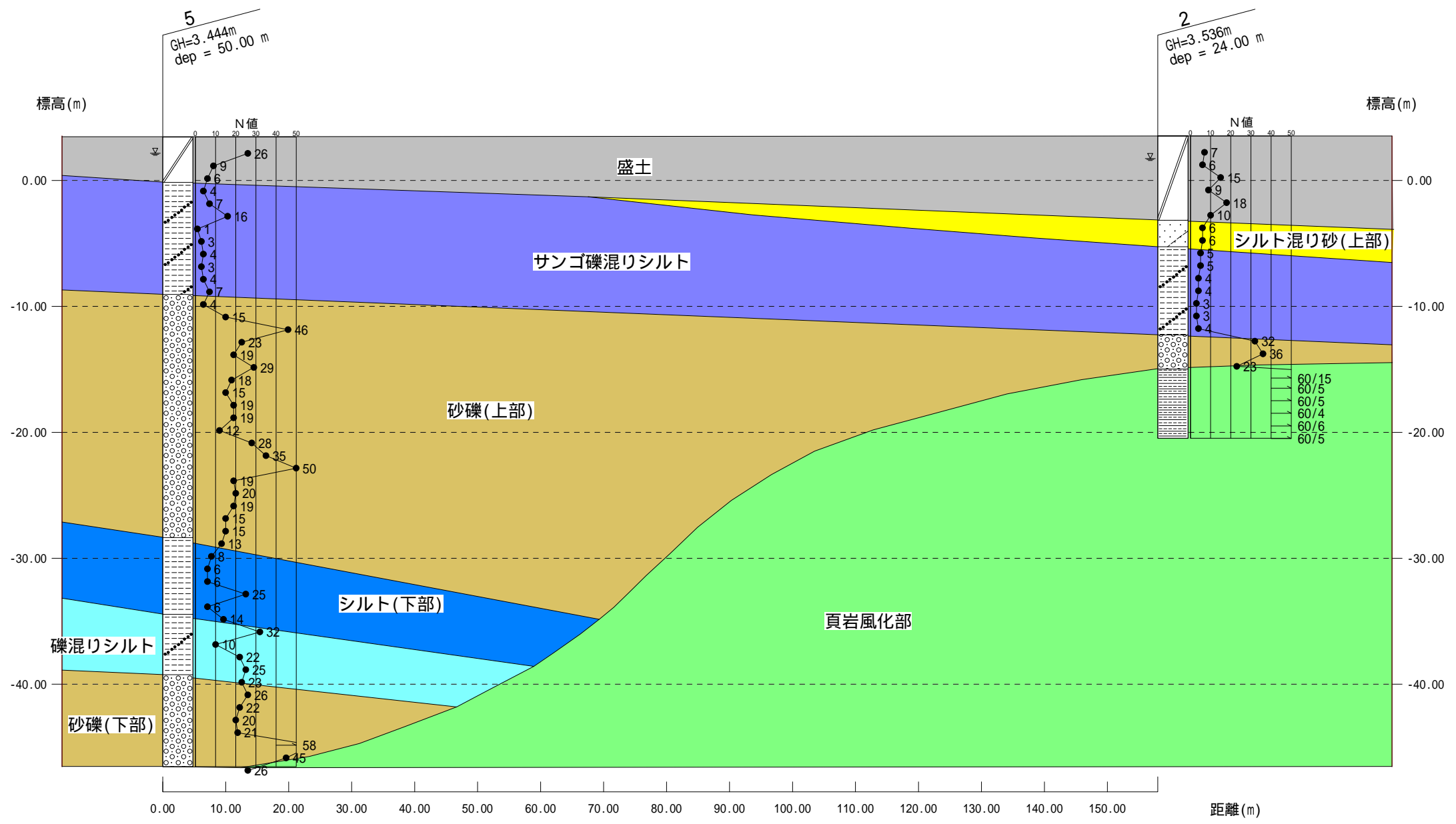










- | | | | |
|---------|------------|-----------|------------|
| 盛土 | シルト混り砂(上部) | サンゴ礫混りシルト | シルト混り砂(下部) |
| シルト(上部) | 砂礫(上部) | 礫混り砂 | シルト(下部) |
| 砂礫(下部) | | | |

地質断面図 S:H=1/500 V=1/400

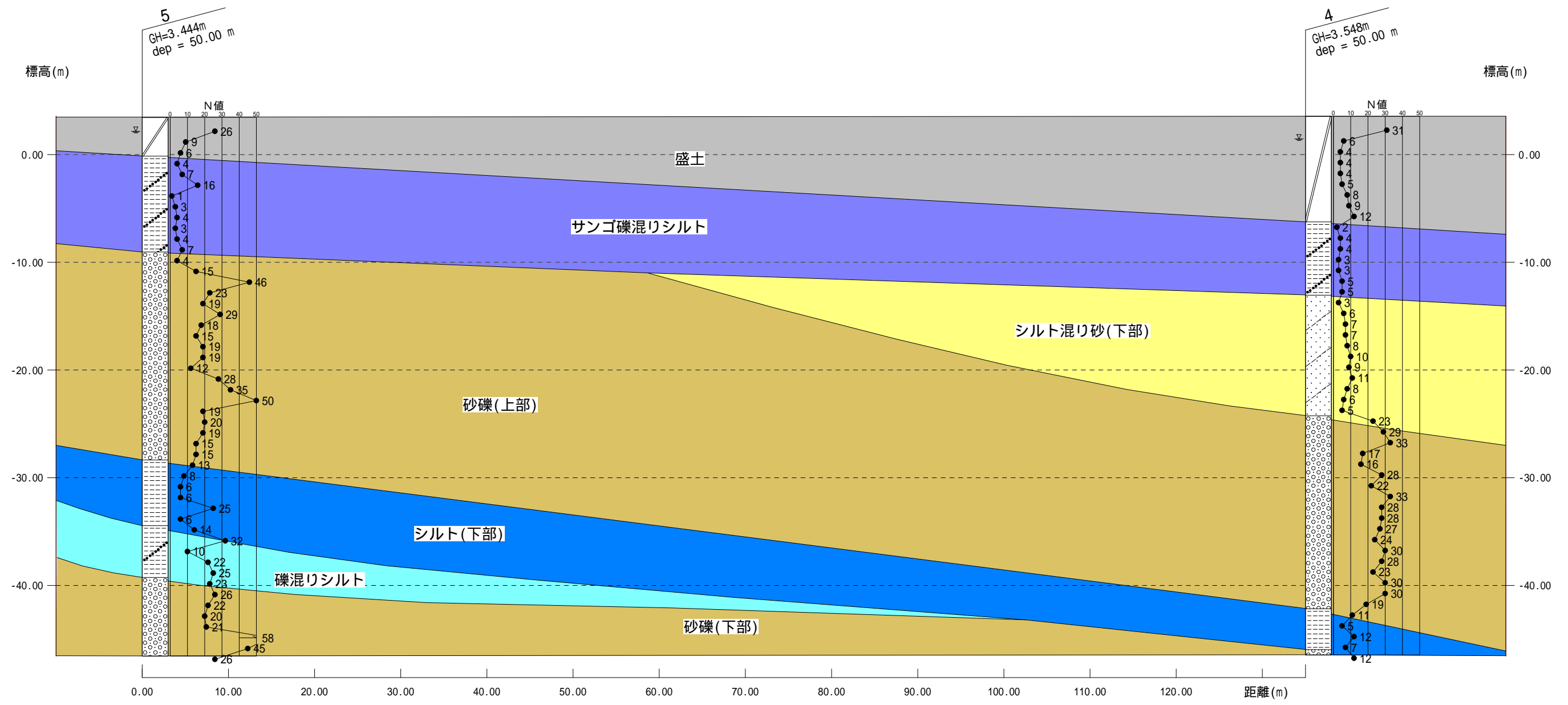









地質断面図 S:H=1/500 V=1/400



- | | | | |
|---|--|--|--|
|  盛土 |  サンゴ礫混りシルト |  シルト混り砂(上部) |  砂礫(上部) |
|  頁岩風化部 |  シルト(下部) |  礫混りシルト |  砂礫(下部) |

地質断面図 S:H=1/800 V=1/400



- | | | | |
|---|---|--|--|
|  盛土 |  サンゴ礫混りシルト |  砂礫(上部) |  シルト混り砂(下部) |
|  シルト(下部) |  礫混りシルト |  砂礫(下部) | |

地質断面図 S:H=1/500 V=1/400

ボーリング柱状図

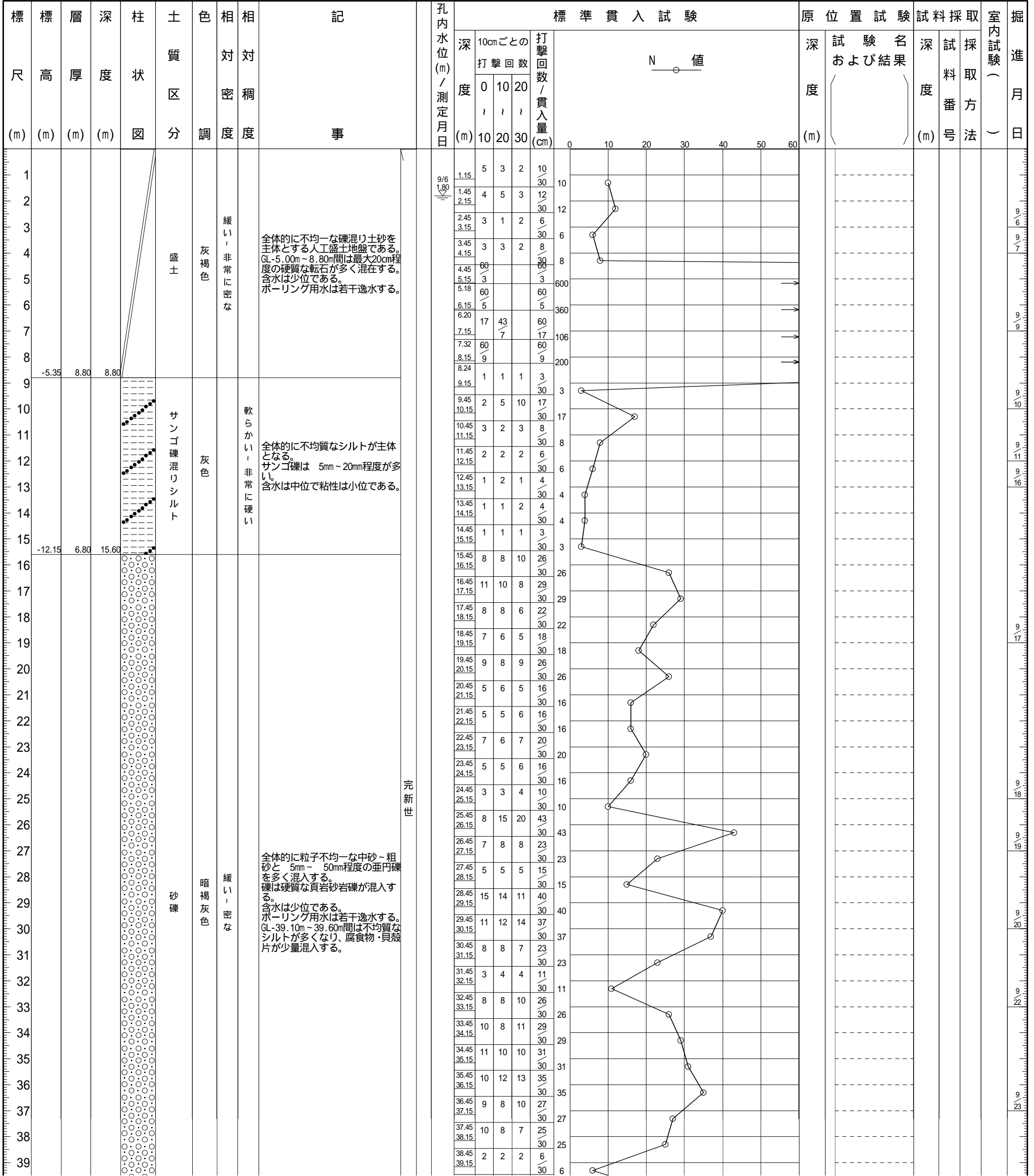
調査名 令和元年度名瀬港（本港工区）地質調査業務委託

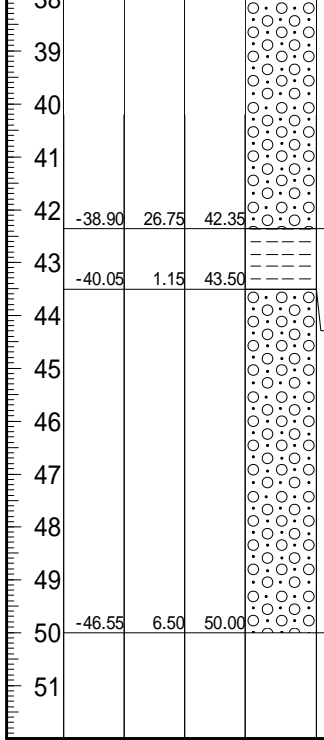
ボーリングNo 1

事業・工事名

シートNo 1

ボーリング名	1	調査位置	鹿児島県奄美市名瀬矢之脇町地内				北緯	28° 23' 01.8"			
発注機関	一般財団法人 奄美市開発公社		調査期間	令和 1年 9月 6日 ~ 1年 9月 26日			東経	129° 29' 37.6"			
調査業者名	株式会社 新日本試験室 電話 (0997-53-5019)	主任技師	若林 茂樹	現場代理人	泉 優次郎	コア鑑定者	泉 優次郎	ボーリング責任者	豊 文彦		
孔口標高	GH= 3.451m	角	180° 上 90° 下	方	北 0° 270° 西 180° 東 90° 南	地盤勾配	鉛直 90° 水平 0°	使用機種	試錐機 東邦製 D0-D型 エンジン ヤンマー製 NFAD8K型	ハンマー落下用具	半自動ハンマー
総掘進長	50.00m	度	0°	向	0°			ポンプ	カーツS-130型		





シルト
砂礫

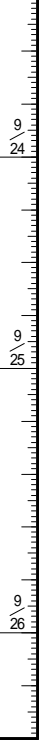
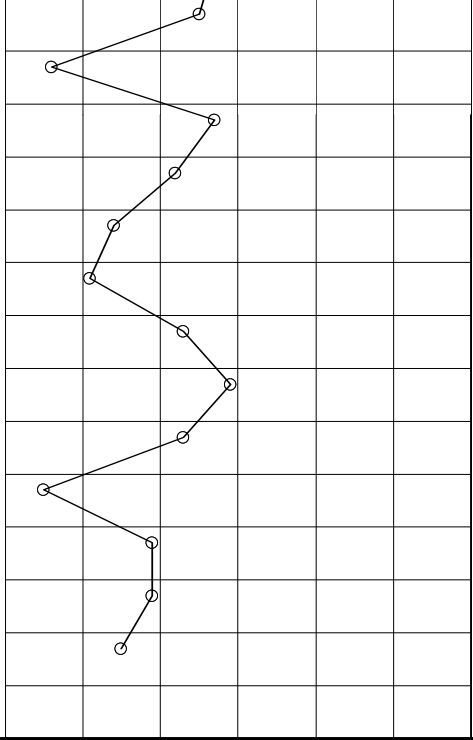
暗灰色
暗褐色
淡緑灰色

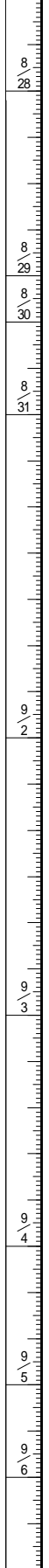
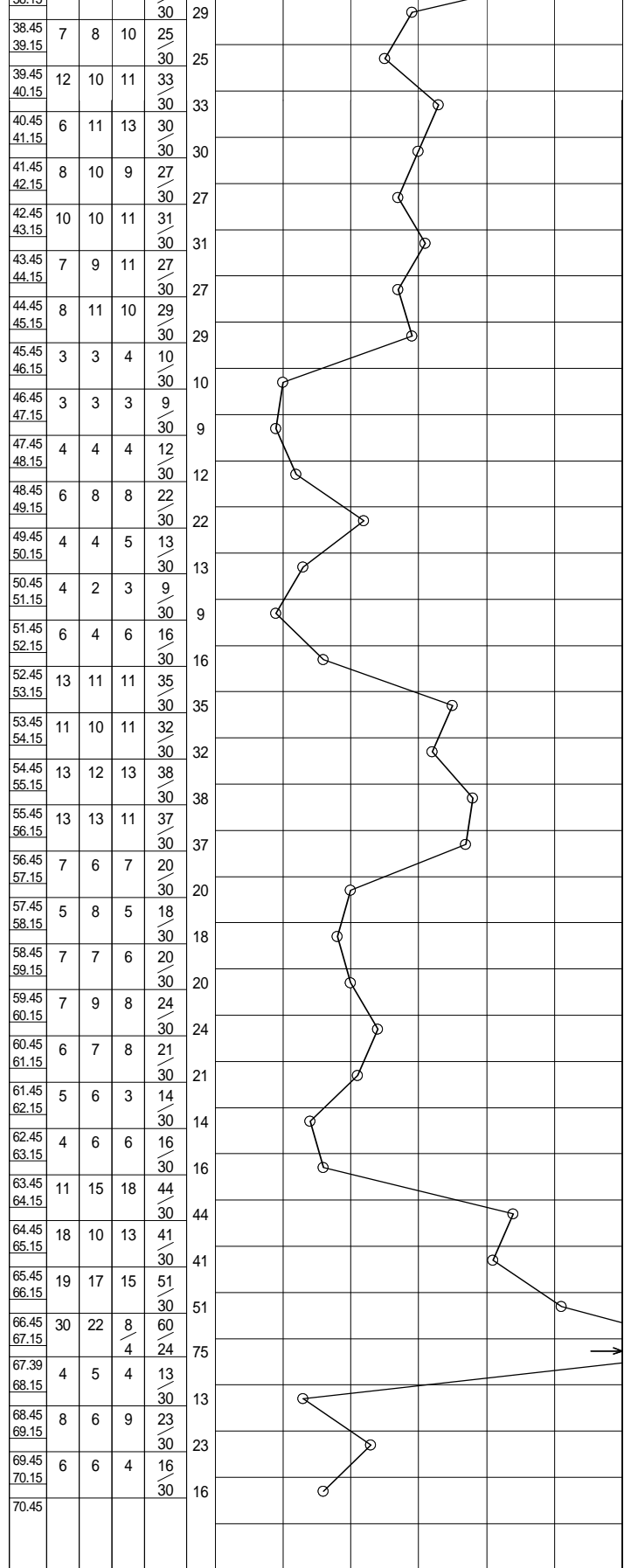
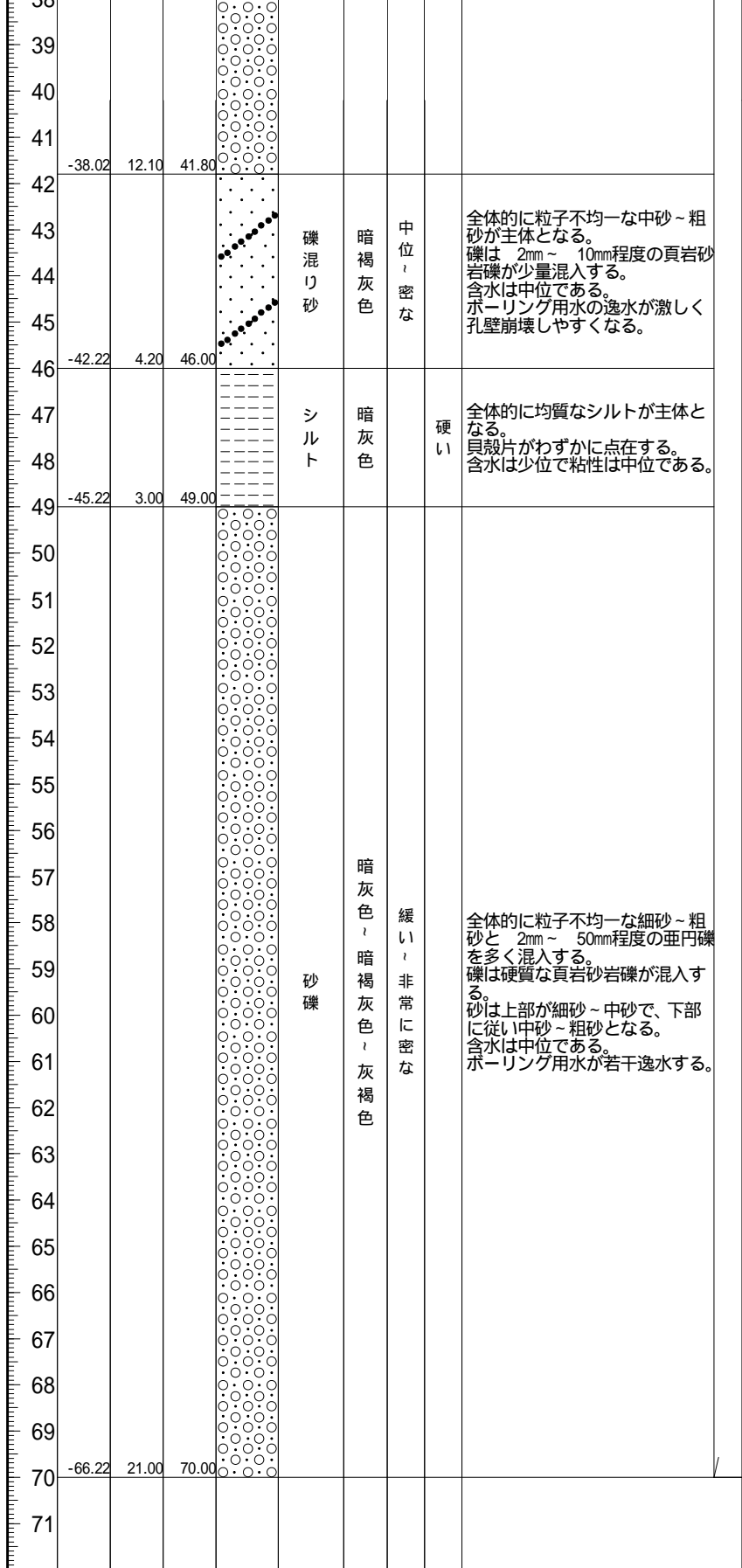
硬い
中位、密な

全体的に不均質なシルトが主体となる。
腐食物・貝殻片・頁岩礫がわずかに混入する。
含水は少位で粘性は中位である。

全体的に粒子不均一な中砂～粗砂と、10mm～30mm程度の垂円礫を多く混入する。
礫は硬質な頁岩砂岩礫が混入する。
含水は少位である。
ボーリング用水は若干逸水する。
GL-46.90m～47.70m間は不均質なシルトを挟む。
GL-47.70mから淡緑灰色に色調が変化する。

38.45	2	2	2	6	25
39.15				30	
39.45	10	9	8	27	6
40.15				30	
40.45	7	7	8	22	27
41.15				30	
41.45	5	6	3	14	22
42.15				30	
42.45	3	4	4	11	14
43.15				30	
43.45	8	7	8	23	11
44.15				30	
44.45	9	10	10	29	23
45.15				30	
45.45	7	8	8	23	29
46.15				30	
46.45	2	1	2	5	23
47.15				30	
47.45	5	7	7	19	5
48.15				30	
48.45	6	6	7	19	19
49.15				30	
49.45	4	5	6	15	19
50.15				30	
50.45					15





ボーリング柱状図

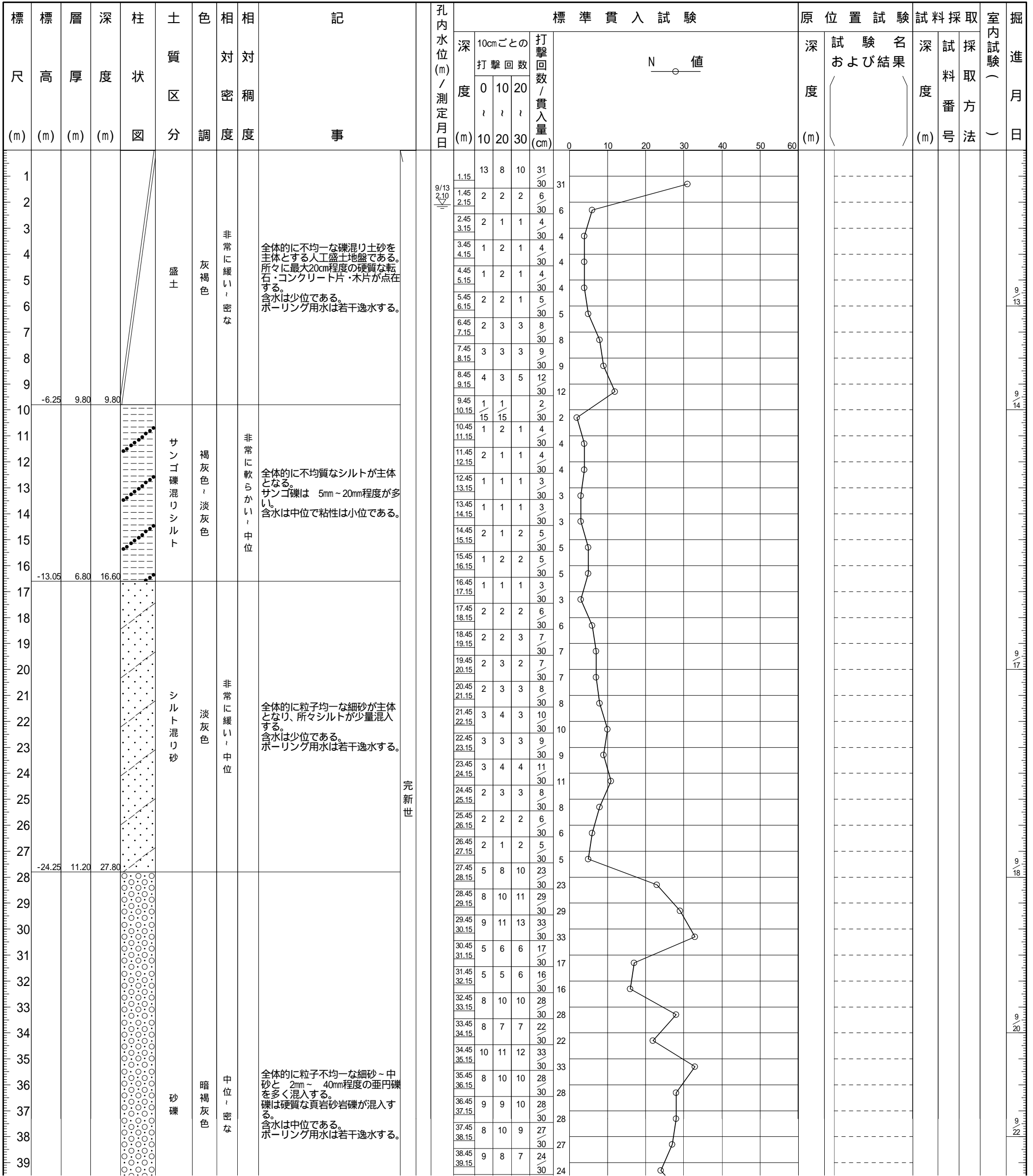
調査名 令和元年度名瀬港（本港工区）地質調査業務委託

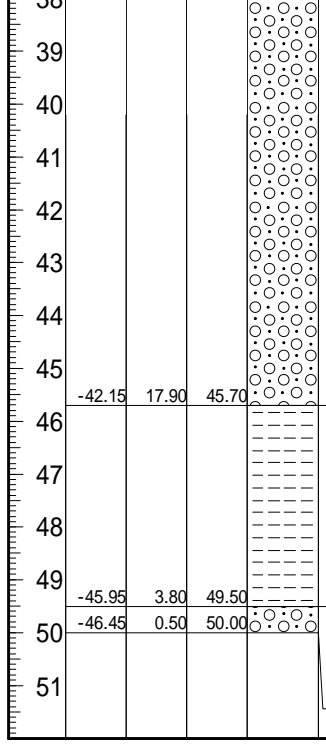
ボーリングNo 4

事業・工事名

シートNo 4

ボーリング名	4	調査位置	鹿児島県奄美市名瀬矢之脇町地内			北緯	28° 22' 58.6"				
発注機関	一般財団法人 奄美市開発公社			調査期間	令和 1年 9月 13日 ~ 1年 9月 25日			東経	129° 29' 40.3"		
調査業者名	株式会社 新日本試験室 電話 (0997-53-5019)		主任技師	若林 茂樹		現代場代理人	泉 優次郎		コ鑑定ア者	泉 優次郎	
ボーリング責任者	米 豊作										
孔口標高	GH= 3.548m		角	180° 上 90° 下 0°		方	北 0° 270° 西 180° 東 90° 南		地盤勾配	鉛直 90° 水平 0°	
使用機種	東邦製 D1-B型		ハンマー落下用具		半自動ハンマー						
エンジン	ヤンマー製 NFAD13型		ポンプ		カーツS-130型						
総掘進長	50.00m										





-42.15 17.90 45.70

-45.95 3.80 49.50

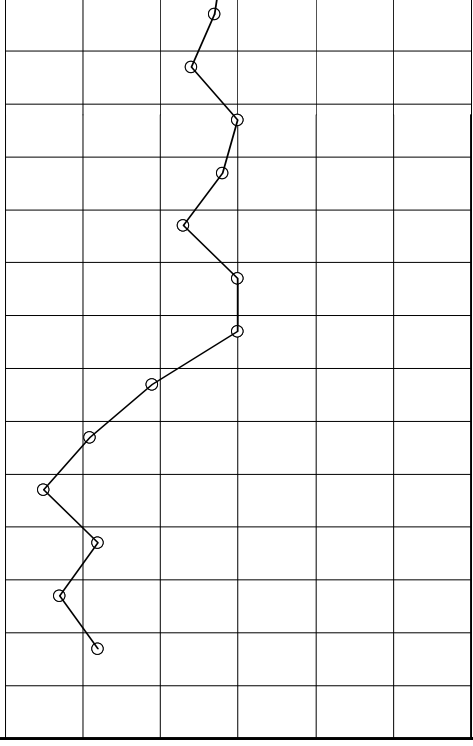
-46.45 0.50 50.00

シルト	暗灰色	中位 硬い
砂礫	暗褐色	中位

全体的に不均質なシルトが主体となる。
所々に腐植物が少量混入する。
含水は少位~中位で粘性は中位である。

全体的に粒子不均一な細砂~中砂と2mm~30mm程度の垂円礫を多く混入する。
含水は中位である。
ボーリング用水は若干逸水する。

38.45	9	8	7	24	30	27
39.15				30	30	
39.45	9	11	10	30	30	24
40.15				30	30	
40.45	10	9	9	28	30	30
41.15				30	30	
41.45	8	8	7	23	30	28
42.15				30	30	
42.45	10	11	9	30	30	23
43.15				30	30	
43.45	11	10	9	30	30	30
44.15				30	30	
44.45	8	6	5	19	30	19
45.15				30	30	
45.45	4	4	3	11	30	11
46.15				30	30	
46.45	2	1	2	5	30	5
47.15				30	30	
47.45	3	4	5	12	30	12
48.15				30	30	
48.45	3	2	2	7	30	7
49.15				30	30	
49.45	4	3	5	12	30	12
50.15				30	30	
50.45						



ボーリング柱状図

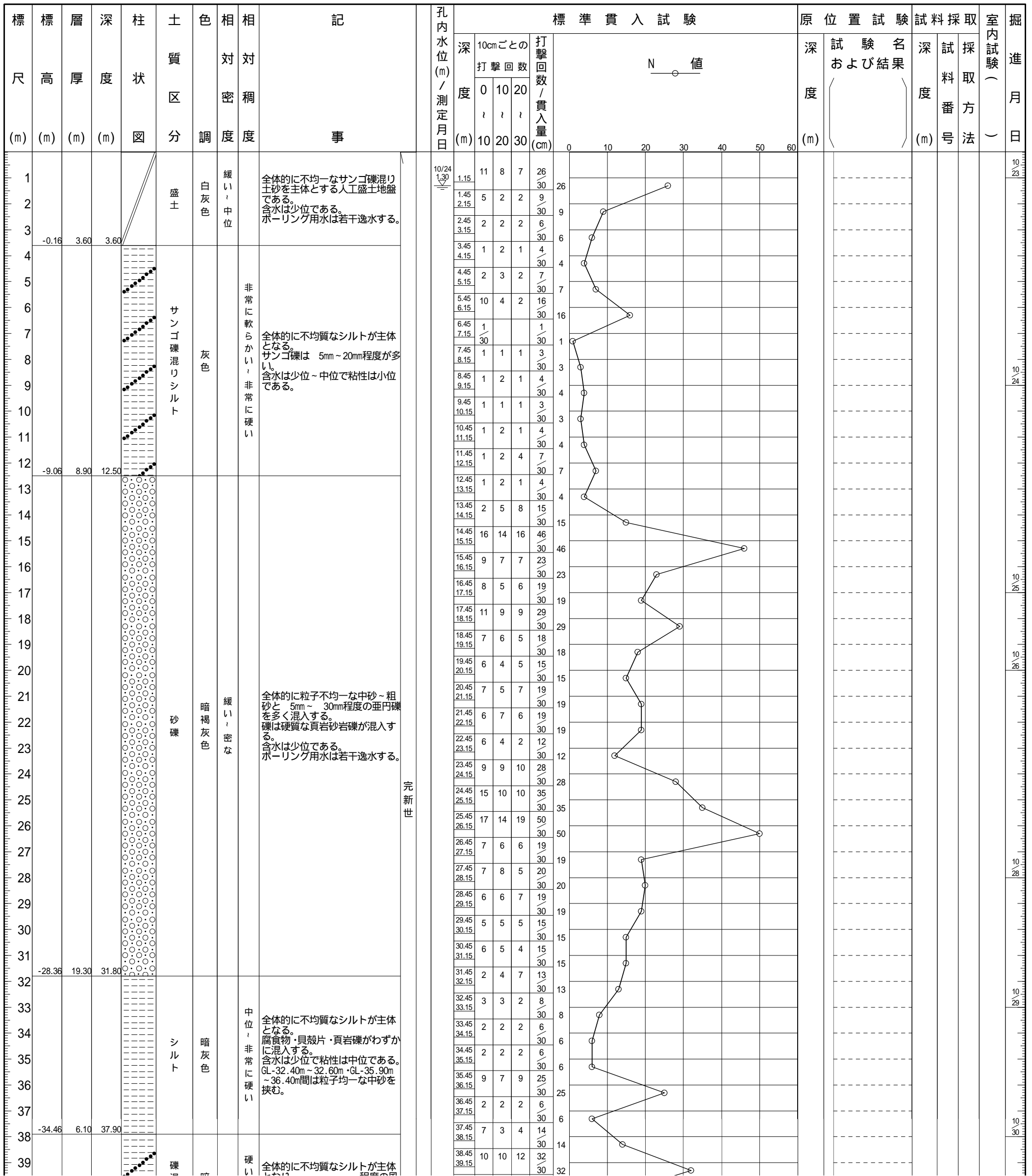
調査名 令和元年度名瀬港（本港工区）地質調査業務委託

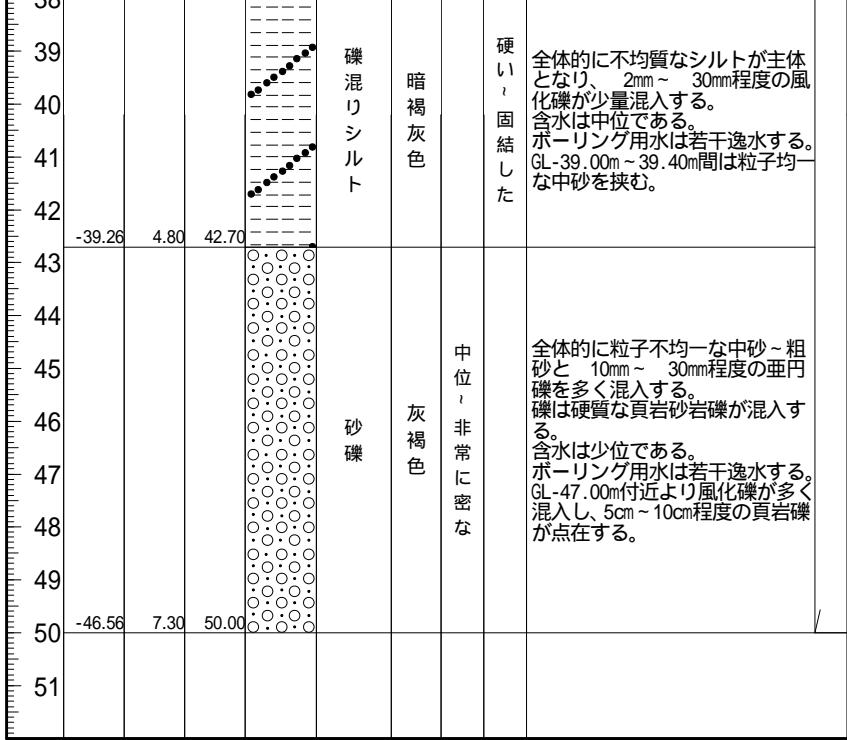
ボーリングNo 5

事業・工事名

シートNo 5

ボーリング名	5		調査位置	鹿児島県奄美市名瀬矢之脇町地内			北緯	28° 22' 58.8"									
発注機関	一般財団法人 奄美市開発公社			調査期間	令和 1年 10月 23日 ~ 1年 11月 4日		東経	129° 29' 36.4"									
調査業者名	株式会社 新日本試験室 電話 (0997-53-5019)		主任技師	若林 茂樹		現代場 代理人	泉 優次郎		コ 鑑 定 者	泉 優次郎	ボーリング 責任者	泉 優次郎					
孔口標高	GH= 3.444m		角 度	180° 上 90° 下 0°		方 向	北 0° 270° 西 90° 東 180° 南		地盤 勾配	鉛直 水平 0° 90° 0°		使用 機種	試錐機 東邦製 D0-D型 エンジン ヤンマー製 NFAD8K型		ハンマー 落下用具	半自動ハンマー	
総掘進長	50.00m																





38.45	10	10	12	32
39.15				30
39.45	5	2	3	10
40.15				30
40.45	8	7	7	22
41.15				30
41.45	10	8	7	25
42.15				30
42.45	7	7	9	23
43.15				30
43.45	8	8	10	26
44.15				30
44.45	6	9	7	22
45.15				30
45.45	5	7	8	20
46.15				30
46.45	9	6	6	21
47.15				30
47.45	16	20	22	58
48.15				30
48.45	10	21	14	45
49.15				30
49.45	8	8	10	26
50.15				30
50.45				26

